

ORIENTAL STUDIES TRIPOS Part I

Japanese Studies

Thursday 5 June 2008 13.30 – 16.30

J.2 MODERN JAPANESE TEXTS, 1

Answer **both** sections.

*Write your number **not** your name on the cover sheet of **each** Section booklet.*

STATIONERY REQUIREMENTS

20 Page Answer Book x 1

Rough Work Pad

**You may not start to read the questions
printed on the subsequent pages of this
question paper until instructed that you may
do so by the Invigilator.**

SECTION A

1 Translate into English [40 marks]:

母はキャバレーに勤めはじめて二年ほど経ったころ、客のひとりだった藤木と深い関係になった。そしてある夜、父の留守を狙って、まとめておいた荷物を藤木の車に積み込み、私と弟を連れて家を出た。妹は玄関の柱にしがみついて泣きじゃくり外に出ようとはしなかった。母はあとで迎えにくるからといい含めて車に乗り、藤木が用意していたマンションに向かったのだった。しかし結局妹は父とふたりで暮らすようになった。藤木は妻子がいるので、平日は会社が終わると真っ直ぐ私たちのマンションにやってきて夕食を食べ、母とふたりで風呂に入り、十二時になると家に帰った。週末は妻子とともに過ごすのだが、月に一、二度出張だと偽って妻が用意した旅行バッグを持って泊まりにきた。このローテーションは二十年経った今でもきちんと守られているようだ。藤木は小遣いの四方を抜いて給料をそっくりそのままに妻に渡すため、母はスナックや焼鳥屋などの水商売で生活費を稼いできた。藤木も夜はバーテンをしたり、焼鳥を引っ繰り返したり、帳簿をつけたりもしている。思いがけず焼鳥屋が流行ってかなり儲かった時期に、北鎌倉の駅から徒歩二十分もかかる土地を買い、家を建てた。

藤木 ふじき (名前)
狙う look out for, take advantage of
柱 post, pillar
しがみつく cling to
いい含める explain
偽る pretend

小遣い spending money
水商売 entertainment business
引っ繰り返す flip over
帳簿 accounts
儲かる make a profit

Yū Miri, 'Kazoku shinema', in *Kazoku shinema* (1997), pp. 68-9.

SECTION B

Candidates should answer TWO of the following three questions:

2 Translate into English: [30 marks]

汽車は今、間々田の停車場を出た。近くの森から、ひぐらし 鶇の
 声が追いかけるように聞える。日は入った。西側の窓
 際にいた人々は日除け窓を開けた。涼しい風が入る。今
 しがた、母に抱かれたまま眠入った赤児の一寸ばかりに
 延びた生毛うぶげが風におののいている。赤児の軽く開いた口
 のあたりあたりに蠅はえが二三疋びきうるさく飛びまわる。母はじつと
 何か考えていたが、時々手のハンケチで蠅をはらった。
 しばらくして女の人は荷を片寄せ、そこへ赤児を寝かす
 と、信玄袋から端書はながきを二三枚と鉛筆を出して書き始めた。

(continued on next page)

(TURN OVER)

けれども筆はなかなか進まなかった。
 「母アさん」景色にも厭きて来た男の子は、ねむそうな眼をして言った。

「なあに？」

「まだなかなか？」

「ええ、なかなかですからね、おねむになったら母アさんに寄りかかって、ねんねなさいよ」

「ねむかない」

「そう、じゃ、何か絵本でも御覧なさいな」——

男の子は黙ってうなずいた。母は包みの中から四五冊の絵本を出してやった。中に古いバックなどがあつた。男の子は柔順しく、それらの絵本を一つ一つ見始めた。その時自分は、後ろへ寄りかかって、下目使いをして本を見ている男の子の眼と、やはり伏目をして端書を書いている母の眼とが、そっくりだということに心づいた。自分は両親に伴われた子を——例えば電車で向い合った場合などに見る時、よくもこれらの何の類似もない男と女との外面に顕われた個性が小さな一人の顔なり、身体つきなりのうちに、しつとりと調和され、一つになつていゝものだということに驚かされる。最初、母と子とを見較べて、よく似ていると思う。次に父と子とを見較べてやはり似ていると思う。そうして、最後に父と母とを見較べて全く類似のないのを何となく不思議に思うことがある。

